ごあいさつ

アジアや太平洋諸国の都市では、経済発展の一方で都市ならではの環境問題が露呈してきています。大気汚染、水質汚濁、そしてごみの不法投棄と、かつて日本が経験した都市の環境問題がすでにアジアの大都市で起こっています。汚染の発生源である自動車や工場などの汚染対策技術は進歩しましたが、現在のアジア大都市における人口密集度は高く、また汚染源も多いため、環境汚染は軽微では済みません。廃棄物について見ると、生活ごみを平気で川や広場に投棄するため、住宅地周辺の川や土壌が汚れているのを見かけます。また、家電ごみを解体してリサイクル可能な部品だけを取り出し、残りを何ら適切な無害化処理をせずに不法投棄する業者があり、そのような地域では重金属汚染の危険性をはらんでいます。そして、廃棄物処理は計画性が乏しく、都市から発生した大量のごみが 50km 以上も遠方にある埋立処分場に運ばれている例も見かけられます。

アジア都市の廃棄物マネジメントは、経済や文化、習慣などに関連し、その国ならではの特徴を有しています。例えば、インドネシアはコミュニティ単位でごみ収集者を雇い、マレーシアでは国が特定業者に収集や処理の全てを委託しており、ベトナムでは路地で鐘が鳴るとインフォーマルな収集人のごみ収集の合図です。そして、台湾では夕刻に音楽が流れると一斉にバケツをもった住民が収集車に集まってきます。そこには日本では見られないその国のあるいはその地域の特有のごみ収集があり、それを熟知した上で廃棄物マネジメントを考えることが必要となります。

本プロジェクトでは学生が現地を訪問し、ごみ分別されない収集現場や埋立場に住んで有価物を手で回収するスカベンジャーを観察しました。彼らは経済発展の下で遅れている都市の基本サービスや、リサイクルを支える貧困層の存在について理解を深めたと思います。それは同時に日本の安定した廃棄物処理政策や高い技術レベルを認識することでもあります。そして、学生は現地での調査活動や研究活動を通して、日本の技術が現地で適応可能か、あるいは新しいアイデアが適用できないか、を考える機会を得たと思います。

岡山大学環境学研究科は組織目標に「開発途上国の環境保全への国際連携の目的に沿うこと」を掲げ、岡山大学の中期目標・中期計画には「アジアをはじめ各地域の状況に柔軟に対応した質の高い国際交流・国際貢献を実施すること」、森田学長ビジョンでは「岡山・岡山大学を国際的な中核的研究・教育拠点とし、積極的に教員や学生を海外に派遣し国際化を目指すこと」を謳っています。学官パートナーシッププロジェクトは、岡山大学が掲げる国際交流・国際貢献の先覚者として、アジアの連携校、そして両国の地方自治体と積極的に交流し、現地が抱える廃棄物の問題に対して実践的に研究教育を行い、それを通して国際人材を育てることを目標に活動しています。平成 23 年度は本プロジェクトの２年目にあたり、１年間の交流実績と応用研究の着実な成果を本報告書にまとめました。今後とも学官パートナーシッププロジェクトへのご協力とご指導を宜しくお願い申し上げます。

平成 24 年 3 月 31 日

廃棄物マネジメント研究センター　センター長　吉川　賢
副センター長　藤原健史